

は何かこれからの検討事項である。漁況に及ぼした要因は以上述べた中にも含まれているかもしれない。これらは今後の課題として今回は実際洋上で感じた事を述べ、操業報告としたい。

#### 4. 昭和44年度母船式サケ・マス漁業のベーリング海における漁海況

吉 村 寿 洋 (日魯漁業株式会社)

##### はじめに

昭和44年度に於ける母船式サケ・マス漁業の船団操業を通してベーリング海に於ける気象、海況、漁況について概略報告する。母船式さけ・ます漁業に於いては、一般的に言つて、漁期前半にはベニザケ魚群の捕捉を目的として漁場選定を行ない、漁期後半にはシロザケ・マス・ギンザケ魚群をその目的として漁場を選定しているのが現状であるが、これとてあく迄基本的な考え方であつて、シロザケ・マスを対象とした操業であつても、よりベニザケの混獲の高い方に偏向する場合、又その逆といつた場合がある。

更に近年の傾向としては、漁期前半の5月下旬～6月中旬頃のベニザケ対象とした操業に続いて、6月下旬以降シロザケを対象とするベーリング海に於ける操業の比重が大きくなつている。

海況としては各半旬別に於ける表面水温のみとりあげ、魚群の分布状態については船団が操業した範囲内で見られた傾向を示す。期間については当該海区に於ける船団の操業は大体6月下旬に始まり6月末～7月上旬にかけて盛漁期を迎えるのが近年の大体の傾向であるので本報告に於いても6月下旬より切揚迄を対象とした。

- (1) 気象の概略
- (2) 各半旬別に於ける海況と操業海区との相関
- (3) 船団操業海区で漁獲された魚群の分布状態と生物学的特徴

をとりあげこれについて述べる。

##### 本 論

##### (1) 気象について

昭和44年度の気象状況としては漁期前半においてはオホーツク海からベーリング海西部にかけて高気圧が覆われ、40°N から45°N 附近に低気圧部があり、これに沿つて低気圧の通過が多く中央漁場アリューシャン列島南漁場ではこの影響により船団休漁という事態も見られた。漁期後半の6月中旬には三陸沖に発達した低気圧がカムチャツカ南東海上を東進し、アリューシャン列島を境として

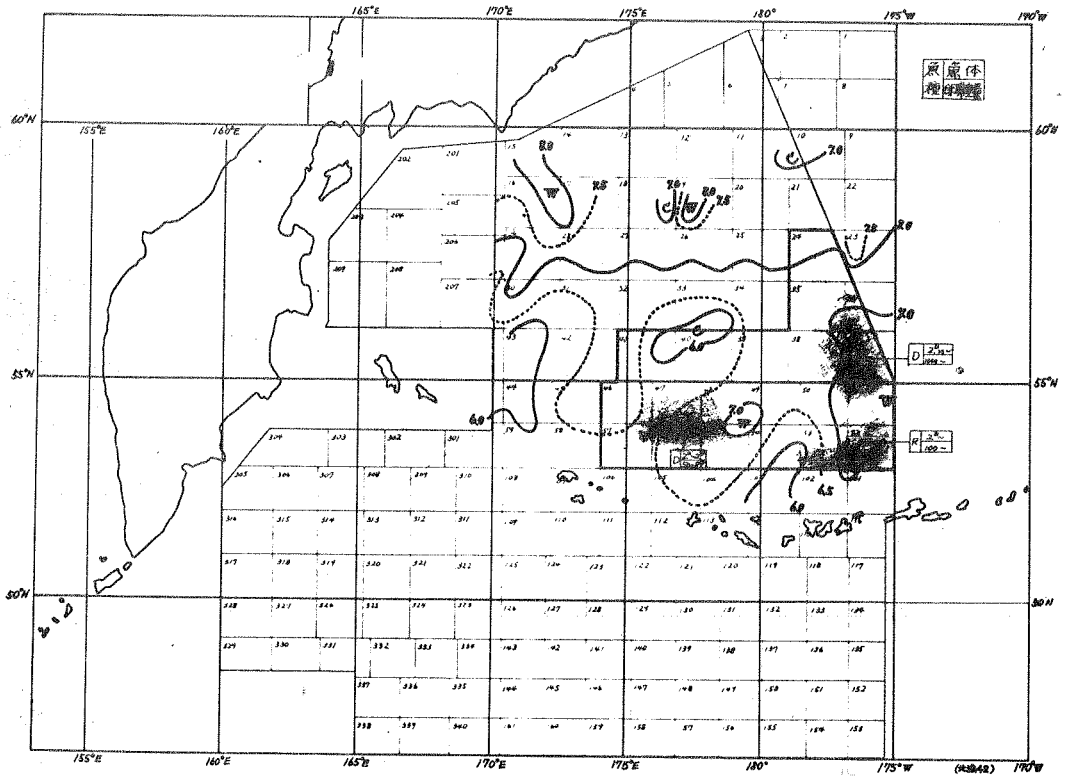
南北に分裂し北側の低気圧がかなりながくベーリング海に停滞していたが、これも6月下旬には消滅し、船団操業海区附近は気圧の峰に入つて安定した状態が続いた。又6月末には発達した低気圧がアリューシャン列島南方を通過し列島南漁場ではかなりの時化模様を呈したが、ベーリング海では高気圧圏内にあつて比較的穏やかであつた。

7月に入つても低気圧の来襲はあつたがいずれもベーリング海に入つて消滅し、7月中旬には南高北低の気圧配置となり船団操業海区附近も低圧部に入つた。しかし気圧配置もゆるやかで漁期終了迄穏やかな天候が続いた。

以上の様に漁期前半に於いては小型の時化が比較的多かつたが漁期後半は比較的穏やかでベーリング海に於いては漁期間を通じ船団操業に影響はなかつたようである。

(2) 漁海況について

6月下旬(前)

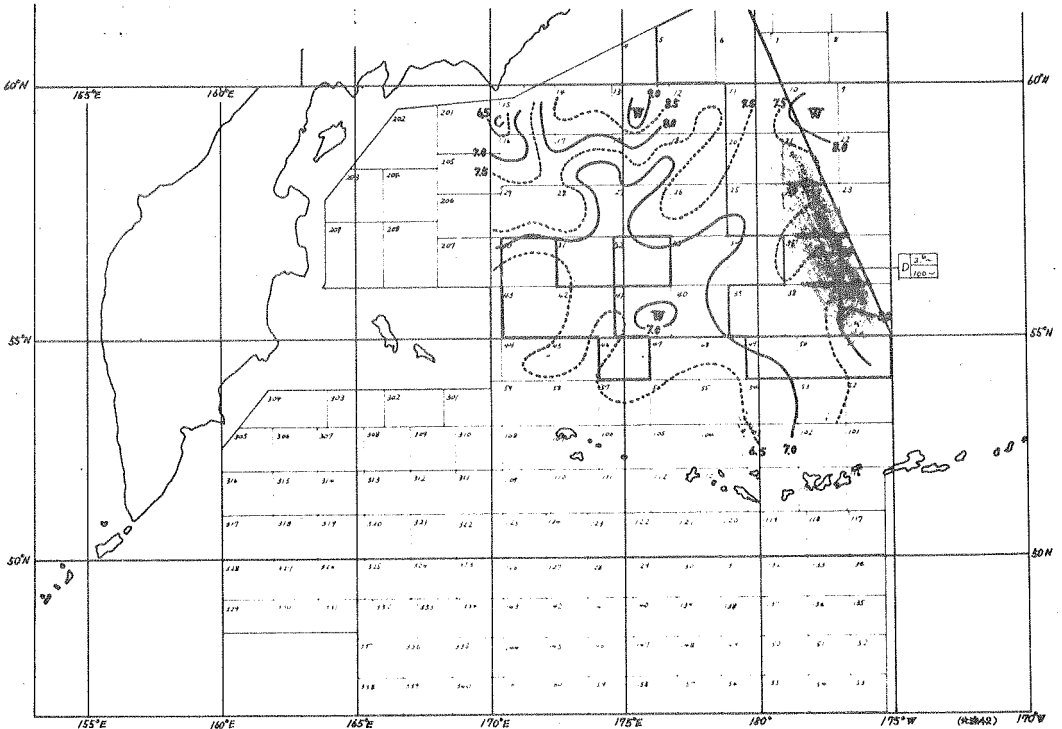


第1図 昭和44年度船団式サケ、マス漁業のベーリング海における海況、操業海区  
6月下旬(前)

57°N 線に沿つて7°C線が東西に長く形成されており、これより南即ち55°N、175°W を中心とした7°Cの暖水の張り出しや54°N、179°E附近にも7°Cの暖水が見られたが、漁場は主に

これら水域に密集した。この旬の始めに  $53^{\circ}\text{N}$ 、 $179^{\circ}\text{W}\sim 175^{\circ}\text{W}$  附近において魚体  $2300\text{g}$  ぐらいの大型のベニザケの濃群が見られた。しかしこれもすぐに薄くなり  $54^{\circ}\text{N}$ 、 $176^{\circ}\text{E}\sim 179^{\circ}\text{E}$  附近において魚体  $2000\text{g}\sim 2300\text{g}$ ・卵巣重量  $50\sim 99\text{g}$  の中型のシロザケとマスの混合群、又  $55^{\circ}\text{N}$ ・ $177^{\circ}\text{N}\sim 176^{\circ}\text{W}$  附近においては魚体  $2400\text{g}$  以上、卵巣重量  $100\text{g}$  以上の大型シロザケの濃群が見られた。

6月下旬(後)

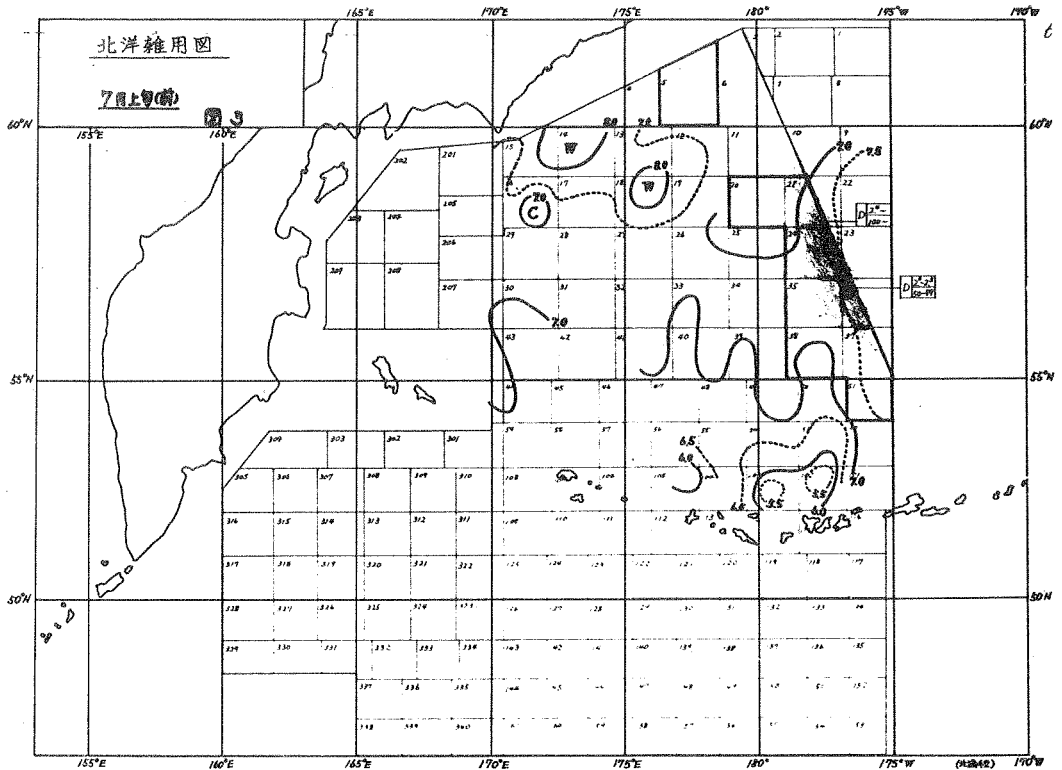


第2図 昭和44年度母船式サケ・マス漁業のベーリング海における海況・操業海区  
6月下旬(後)

前旬に比べ北東よりの暖水の張出し強く  $57^{\circ}\text{N}$  線に沿って東西に伸びていた  $7^{\circ}\text{C}$  線は右下りとなり北東及び東より  $8^{\circ}\text{C}$  の暖水の張出しが見られた。漁場は  $55^{\circ}\text{N}$ 、 $175^{\circ}\text{W}$  の地点とナワリン岬を結んだ線に沿った西側の海区では  $55^{\circ}\text{N}\sim 59^{\circ}\text{N}$  の間に於いて魚体  $2400\text{g}$  以上、卵巣重量  $100\text{g}$  以上のシロザケの大型群を捕捉、好漁を示したが  $55^{\circ}\text{N}$ 、 $170^{\circ}\text{E}\sim 175^{\circ}\text{E}$  を中心とした海区では比較的魚群は薄かった。

7月上旬(前)

表面水温は前旬に比し東より暖水の張出しがあまり見られず南のアダック北方に  $6^{\circ}\text{C}$  の低水温の突込みが見られた。漁場はベーリング海東に集約された形となり、この海区の  $58^{\circ}\text{N}$  を中心とした海



第3図 昭和44年度母船式サケ・マス漁業のベーリング海における海況。操業海区  
7月上旬(前)

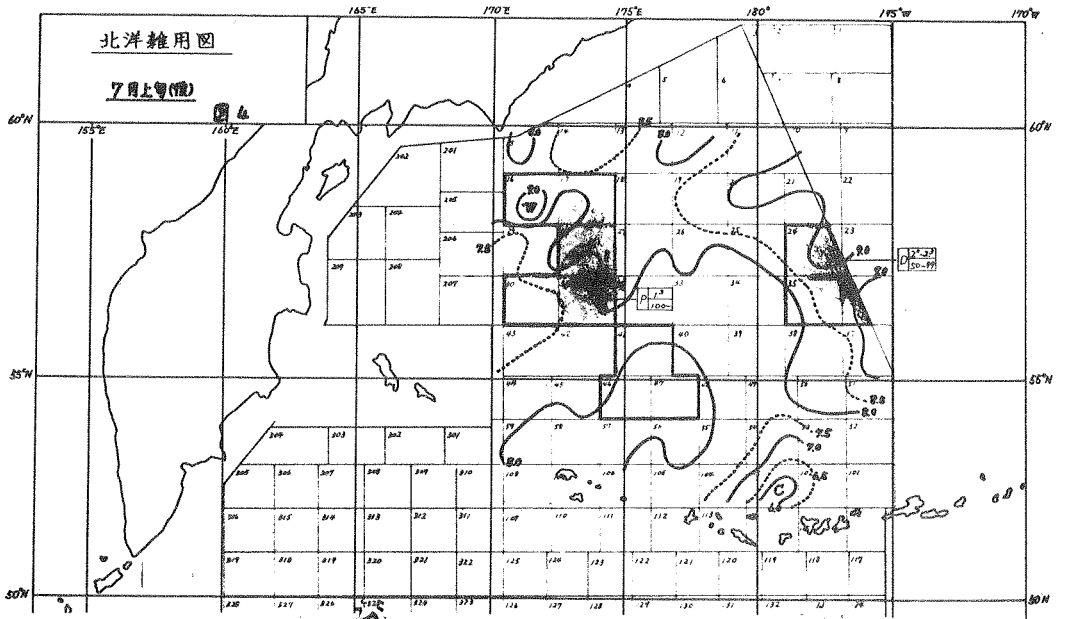
区においては魚体2400g以上、卵巣重量100g以上の大型のシロザケが、56°Nを中心とした海区においては魚体2000g~2300g、卵巣重量50~99gの中型のシロザケの濃群が見られた。然し乍らこの旬の終りには漁況の低下が目立ち船団の移動が激しくなり、7月上旬(後)になると漁場も二つに分断された。

7月上旬(後)

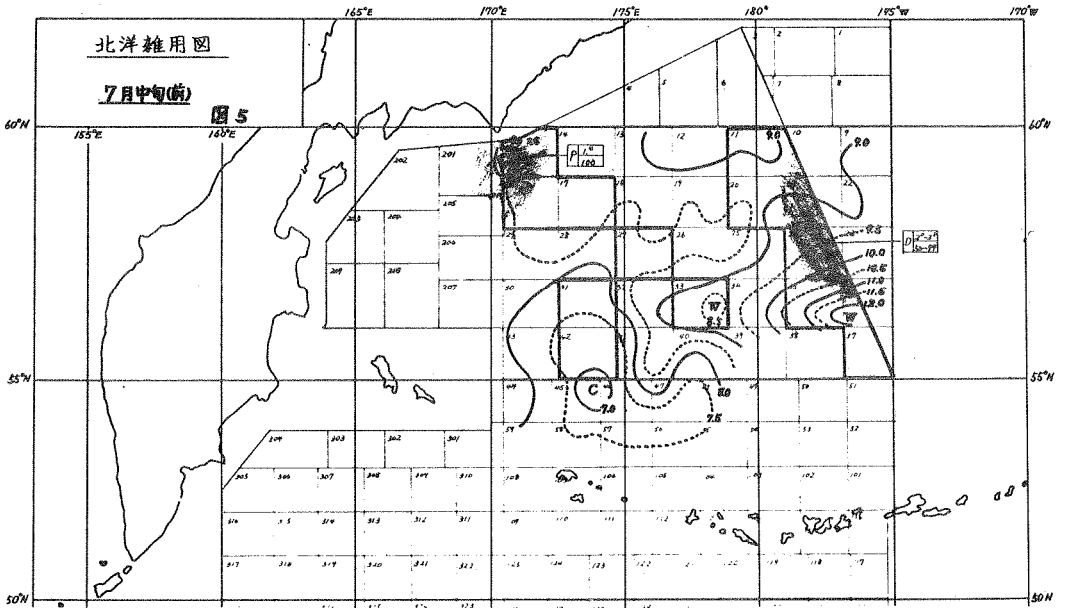
表面水温は北よりの暖水の張出しが顕著となり8°Cの線が北西より南東に伸びて漁場を東西に分断・東方にはわずかに1船団を残すのみとなつたが、前旬に引続き魚体2000g~2300g・卵巣重量50~99gのシロザケの中型群を捕捉した。一方西方の56°N~58°N、173°E~175°Eでは魚体1300g~1400g、卵巣重量100gのマスの濃群が見られ比較的好漁を示した。

7月中旬(前)

海区全域に亘り水温の上昇が目立ち、特に東よりの暖水の張出しが強く、57°N、177°W附近では11°C~12°Cの暖水が見られた。漁場も前旬の56°N~58°N、173°E~175°Eの西方のマスの移動早くオリュートル岬沖にて魚体1300g~1400g・卵巣重量100gのマスが見られ、東方の56°N~59°Nのラインに沿つた海区においては魚体2000g~2300g、



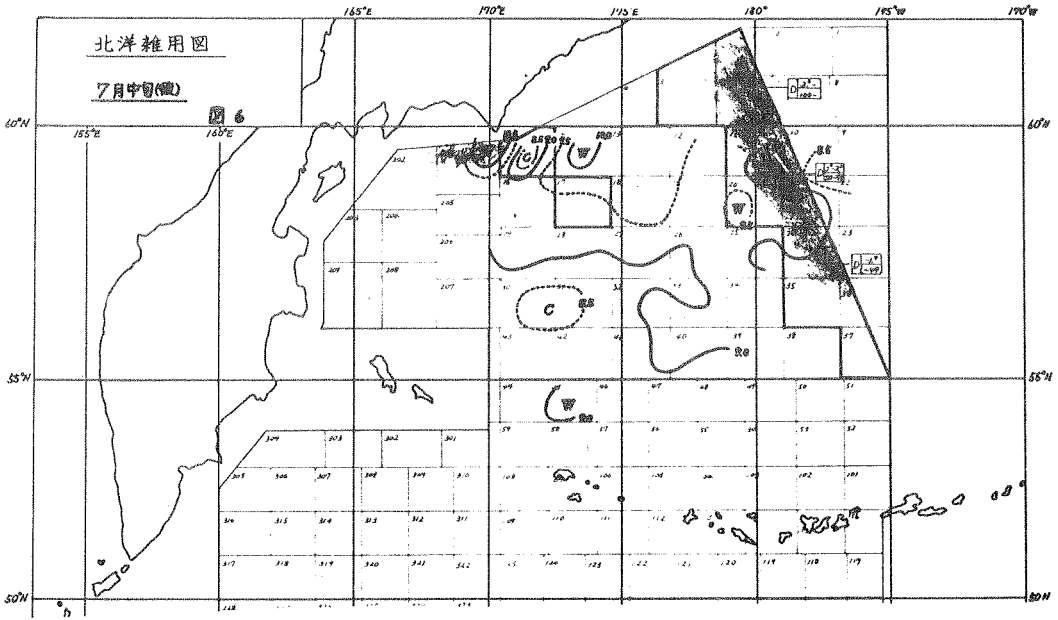
第4図 昭和44年度母船式サケ・マス漁業のベーリング海における海況・操業海区  
7日ト旬(後)



第5図 昭和44年度母船式サケ・マス漁業のベーリング海における海況・操業海区  
7月中旬(前)

卵巣重量50~99gの中型シロザケの濃群が見られた。

7月中旬(後)



第6図 昭和44年度母船式サケ・マス漁業のベーリング海における海況。操業海区  
7月中旬(後)

オリュートル岬沖に水温の上昇が見られて混合水域の形成が見られる外は全域共左程変りなく漁場もナワリン岬と55°N、175°Wを結んだ線に沿って4船団が南北に並び60°N附近では魚体2400g、卵巣重量100gの大型群、58°N~59°N附近では魚体2000g~2300g、卵巣重量50~99gの中型群、又57°N~58°N附近では魚体1900g・卵巣重量49g以下の小型群の分布が見られ、各群共早い速度での北上の傾向が見られた。

### 要 約

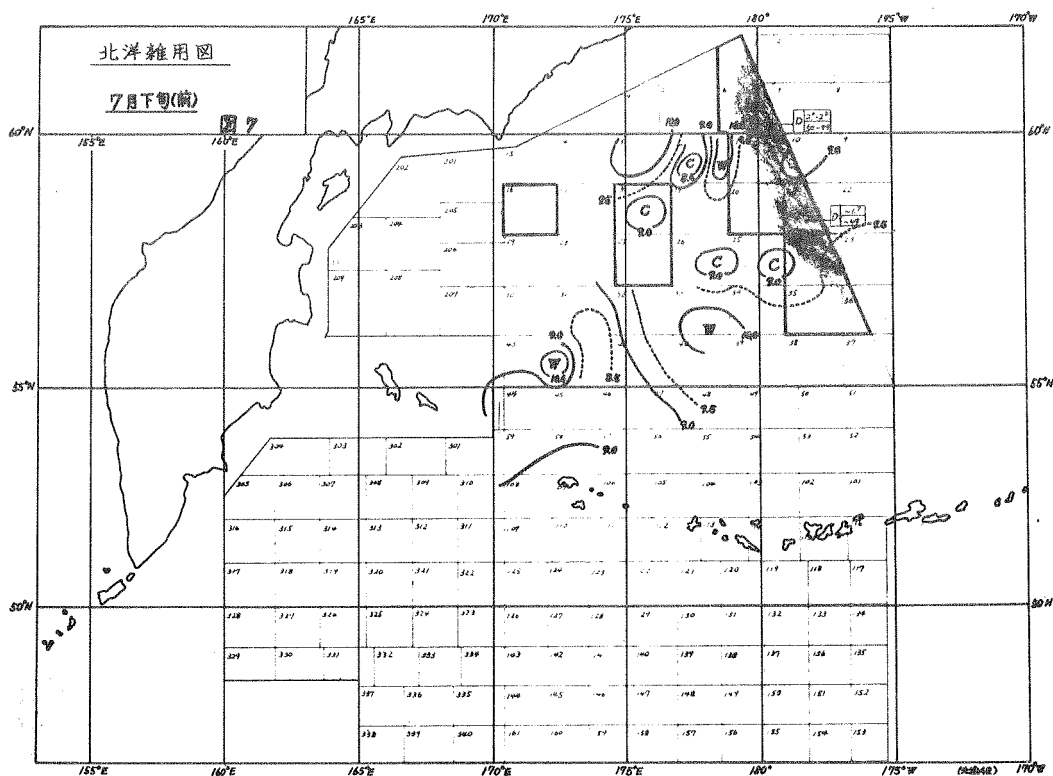
(1) 43年度はベーリング海全域に亘って例年に比べ低温であつたが、44年度は前年に比して1°C~2°C高かつた。特に北方海域が目立ち南方海域に低い北高南低の傾向を示した。これにより南より北への魚群のスピードも一層早められ、一定海域に集約される機会が少なく、船団の操業も不安定とならざるを得なかつた。

(2) 低気圧の来襲等による時化休漁といった事態は、時期的に比較的穏やかな期間でもあり影響は

あまり見られなかつた。

(3) シロザケ魚群の傾向としてはベーリング海東部では6月中旬の後半にベニザケに混つたシロザケの大型群の来遊があり、その後6月下旬の前、後半にかけてシロザケ一魚種の大型群が続き、7月上旬の前半より7月中旬の前半にかけて中型群、7月中旬の後半より小型群の濃群の北上がみられた。

マスについては7月上旬の後半にベーリング海中央に濃群が見られたが、7月中旬の前半にはオリエートル岬沖から調整海区北側に達するというように魚群の動きが早かつたようである。



第7図 昭和44年度母船式サケ、マス漁業のベーリング海における漁況、操業海区  
7月下旬(前)